



ザリガニのえさの探し方や食べ方を教えて

触角やはさみに、アンテナがある

ザリガニがえさを見つけるときの武器は、長い触角です。触角で、水にとけている物の味やおいさを、感じる事ができるのです。大きくてりっぱなはさみや、歩く足(歩きやく)の先についている小さいはさみにも、においや味を感じる感覚器がついています。ですから、ザリガニは、水の底をはい回りながら、触角やはさみをふりまわして、においや味をたよりに獲物を見つけます。獲物は、魚、ミミズ、貝、水生こん虫などです。でも、生きている物をすばやくとらえることは、あまりじょうずではないので、弱って死にかけているような物をねらいます。

食べるのに使うのは、小さいはさみ

獲物を見つけると、歩きやくの先についた、小さいはさみを使って肉などをむしり取り、口に運びます。大きいはさみは、獲物をかかえこむことぐらいにしか使いません。

口の周りの、毛の生えた6本のひげのような物が、えさをかかえこみ、口の中におしこむ役目をします。あとは、がっちりとした大きなあごが、えさをかみくだき、胃に送ります。巻き貝の殻なども、ぱりぱりかみくだいて、食べてしまいます。

ザリガニは、ふつう肉食ですが、水底のこげや、水草なども、歩きやくの先のはさみを使って、むしり取って食べます。

ザリガニの目は、まわりから敵がおそってこないか見張ったり、進む方向などを見るときに使い、えさ探しにはあまり使わないようです。(監修・中山 周平)

